

### 第3回 小郡市総合振興計画審議会 要録

日	時	平成27年10月19日(月)午後2時00分～午後3時40分
会	場	小郡市役所仮庁舎北棟 3階会議室
内	容	
	1. 報告	
	2. 議題	(1) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画序論(案)について (2) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画(案)について (3) 今後の計画策定スケジュールについて

#### 議事詳細

##### 開会

##### 1. 報告

(第2回審議会にて、委員より要望のあった総合計画策定後の庁内推進体制について説明、また、現在策定中の「小郡市地方創生総合戦略(仮称)」について、総合計画と整合をとる旨の報告を行った)

##### ①第5次小郡市総合振興計画(後期基本計画)推進体制・総合戦略

##### (説明概要)

後期基本計画策定後、計画を推進していくための本市のPDCAサイクルに係る庁内体制の説明を行った。また、総合計画と総合戦略の整合については、計画の施策として「地方創生」を位置づけることとし、文案を提示した。

委員 検証において使用する指標は、総合計画素案にある指標のみか。計画に記載されている指標だけでは一面的な指標に思える。

事務局 総合計画素案にある指標だけではなく、事務事業評価の中では、各事業においても別途指標を設定している。

委員 小郡市においては企画課が施策を統括し、結果を三役もまじえて検証するということによろしいか。

事務局 そうである。

## 2. 議題

### (1) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画序論（案）について

(説明概要)

序論（案）の修正箇所と、現在、策定中の「小郡市人口ビジョン（案）」について説明を行った。

委員 小郡市に住んでいる人がどの地域で働いているのかは重要な点と考える。そうしたデータはあるのか。

事務局 「小郡市人口ビジョン（案）」に小郡市民の就業地については掲載している。

委員 今後調べてもらいたいことは、市外で働く市民の住居について。従来からの持ち家なのか、マンションなのか、新たに住宅を建てているのか。住宅価格は今がピークと考えられるため、福岡中心部の住宅価格が下落してくると、住宅価格が安いとは言えない本市から福岡中心部への流出が考えられる。明確な方向性を決めることが重要と考える。例えば、ベッドタウンとして発展すると決めれば、景観や生活環境向上などの施策を進めるといように、切り口を見定めていかなければならない。

委員 あすみ地区について、西鉄が三国が丘駅前に大規模な宅地造成をすると新聞報道があったが、市企画課も協議に加わっているのか。

事務局 もともとその地域は、筑後小郡簡保レクセンター跡地ということで、県有地であり、跡地利用については県の協議に市企画課や都市計画課も加わっていた。まず最初に九州歴史資料館という公的なゾーンを決め、残りのゾーンについては、県が有識者会議を何度も開いていくなかで、プロポーザルで民間に売却するのがいいだろうということで西鉄に売却が決定した。その際、検討会議が開催され、市からも副市長が参加し、条件整備や役割分担について協議を進めてきた。

委員 今後も、こうした民間の呼び込みに力を入れてほしい。

委員 そうした新興住宅地の取組みと同時に、既存の住宅地に空き家が出ていないか、アンテナを張ってほしい。

- 委員 「小郡市人口ビジョン（案）」の中にある、東京圏への転出者はおそらく就学によるものだと思うが、東京圏に転出した若い人達その後就職する段階で本市に戻ってくることはほぼ考えられない。このマイナスに歯止めをかけるために、東京圏において本市の周知を図る取組みをしてほしい。
- 委員 東京圏もこれから人口が減少し、住宅価格等が下がってくるとすれば、本市に帰ってくるポイントは、育児環境や教育環境だと思う。
- 委員 田舎なら田舎として発展するという意見が、以前の審議会であったと思うが、思い切った方向性の議論をしてもいいのではないか。
- 委員 空き家については、管理が行き届かないままで放置されることがないように規制を含めた抜本的な取組みが必要ではないか。
- 事務局 人口についてであるが、前回の審議会の中で、現在定めている目標人口について現実的に検討するよう指摘があった。人口ビジョンで将来人口の分析を進める中で、総合計画において当初掲げていた2020年に65,000人の達成は困難だということが分かった。したがって、人口ビジョンの推計・分析をふまえ、2020年に61,000人を目標と考えたい。
- 委員 やむをえないだろう。宅地造成については、限界がある。今後は、親から子、子から孫が住み続けられるよう循環型社会をつくっていくことが重要である。福岡市や久留米市とタイアップすることも考えるといい。本市は九州でもきれいで住みやすいまちであり、もっと総合的にしかけていければと思う。
- 事務局 現在、久留米市とは連携中枢都市圏ということで、来年度から具体的な取組を進めていく。福岡都市圏については、クロスロード協議会（小郡市、久留米市、鳥栖市、基山町）と福岡市が連携したグランドクロス協議会というものがあり、そこで東京での企業誘致活動に取り組んでいる。
- 委員 年代によって住みやすさは異なり、全ての年代が100%満足する住みやすさを達成することは非常に難しいということをふまえて考えていくことが必要である。

委員 現在のままでは、少子高齢化が進むため、労働力だけでなく様々な面で担い手の問題が出てくる。

委員 生産年齢人口は減っていくことが考えられるので、高齢者を活用していくことを考えるべきである。老老介護を単にマイナスイメージとするのではなく、75歳までを現役世代として、高齢者が介護に取り組むのはいいと思う。「小郡市の高齢者は楽しそう」というイメージを定着させるのもよいのではないか。

委員 若い人達が住む場所は、現在、育児・教育費の支援によって決められることが多い。そのため、競争になっており、どこまで支援するかということは現実的には難しい。それ以外のところで、何かで評判をとっていく必要があるだろう。

委員 高齢化社会ということを考えると、認知症について市民の認識が深まることも重要ではないか。高齢者が楽しく過ごし、みんなが理解し見守る、という市にしていくといいと思う。

委員 認知症対策の取組みは必要・重要であるが、単にそれを実施するだけでは、地域の活性化にはつながらない。そこに戦略性が必要になってくる。

委員 未就園児の親の交流の場を、各行政区で充実してはどうか。

委員 それも重要なことだが、やはり問題はそれをどうアピールしていくかということだと思う。まちをどうブランド化していくかという議論が必要である。

委員 本市は住みよいが、発信力が弱すぎると思う。もっと強力にしかけていく必要があると思う。

委員 しかけをするにも素材が必要で、難しい部分である。

## (2) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画（案）について

(説明概要)

後期基本計画（案）の主な修正事項についての説明を行った。また、第

2回審議会で委員より提案のあった市民団体の活動の総合計画への登載について、庁内各課の把握しているものについて説明を行い、一定の基準をもって登載する方向で検討している旨の説明を行った。

委員            ボランティア連絡協議会に登録のあるものは、説明のあったものよりもっと多かったと思うが。

事務局            今回は、ボランティア情報センターに登録されたものを、説明した。

(3) 今後の計画策定のスケジュールについて

(説明概要)

今後の日程についてパブリック・コメントまでのスケジュールを中心に説明した。

(会議の閉会にあたり副会長より挨拶)

閉会